教職科目Ｂ美術科教育法３

授業評価・授業研究報告

美術教育講座・福井一真

平成 30 年度３年次前学期（金曜日３限）の教職科目Ｂ美術科教育法３についての授業評価・授業研究報告を行う。担当者:福井一真／登録学生数２名。

１　授業の目的および概要について

本授業は主に中学校美術科の教育課程を理解した上で模擬授業を行い、美術の授業を構想し設計する力や、授業分析の能力を培うことを目的とし、以下の３点を到達目標としている。

１）生徒の実態を視野にいれた授業設計ができる。

２）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

３）模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身につける。

２　授業を行う上での工夫

２年次後期の美術科教育法２の学習内容を引き継ぎ、中学校美術科の授業を立案・実施するために、模擬授業を行うこととしていた。しかし、登録学生が２名と少なく、模擬授業の実施が困難な状況であったため、５月に愛媛大学教育学部附属小学校で募集していた「土曜学習」に応募し、中学生に一番近い年齢層の６年生を対象とした活動を実施することにした。模擬授業の代わりとして土曜学習を利用することで、授業をつくる上でより具体的な学びを得ることができると期待した。

３　授業アンケートの結果

授業アンケート（平成 30 年６月 29 日実施）は、２名の回答を得ることができた。

3-1　授業全体について

【総合的にこの授業は満足だった】という設問に対して、「とてもあてはまる」２名、【全体的にこの授業を真剣に受けた。】という設問に対しては、「とてもあてはまる」１名、「まぁまぁあてはまる」１名という回答を得た。この結果から、授業全体を通して、学生が積極的に授業に取り組めていたと判断することができる。

本授業を受講して中等教育における授業を構想し設計する力が身についた】という設問では「とてもあてはまる」１名、「まぁまぁあてはまる」１名という回答を得た。さらに、【本授業を受講する前と受講した後で、授業を実施していくための自信がついた】という設問では、「とてもあてはまる」１名、「まぁまぁあてはまる」１名という結果を得た。この結果から、本授業の到達目標を概ね達成できたものと判断できるのではないだろうか。

3-2　地域社会を核とした教育と研究のつながり

近年では、子どもの造形プロセスによくみられる「つくりながら考える」造形プロセスについての研究を行っている。本プロセスはイメージを前提とした活動ではなく、素材や道具などとのかかわりの中から、イメージが着想し、変容していくことを前提としたものである。本授業では、こうした造形プロセスを基盤に授業の活動を立案・実施する。さらに附属小学校の「土曜学習」の活動を活用することで地域の小学生を対象に、本プロセスの考え方を基盤とした活動実践を実現することができた。

４　成果と課題

【本授業の改善点】についての回答は、特に得られなかったが、【本授業の良いと思う点】については以下のような記述がみられた。

・実際に模擬授業を行ったり、土曜学習を行ったりと、実習に向けて具体的に授業をつくるとはどういうことか理解できる。

・模擬授業などによる実践が多く取り入れられている。繰り返し指導案について検討できる。

これらの意見から、本授業の目的のひとつでもある、中学校美術科の授業の立案・実施に対する深い理解を得ることができたと考えられる。土曜学習を活用することで、受講生に「当事者意識」が芽生え、児童によりよい活動を提供するための努力や工夫を重ね続けた結果、「実習に向けて具体的に授業をつくる」ための理解を深めることができたのであろう。今後も土曜学習を利用するなど、改めて少人数授業の対策を考えていくことが課題である。